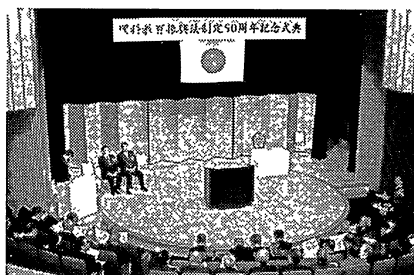


理科教育振興法制定50周年記念式典の 大成功を理科教育の一層の発展につなげよう

日本理化学協会会長 菊池正仁



式典直前の会場

さる1月17日(土)に日本科学未来館で行われた理科教育振興法制定50周年記念式典は、皇太子殿下の行啓を頂いて行われました。会長の有馬先生を始め、御手洗文部科学省事務次官・鳩山邦夫衆議院議員・倉持行良理振協会長はじめ多くのご来賓にご臨席頂き、また、ノーベル賞受賞者白川英樹先生にご講演頂くなど、従来の記念式典を上回る熱気のうちに大成功を収めました。



参加者席

また、この式典にご参加頂き、多くの会員に感銘を与えていただいた来賓の方々には特に感謝したいと思います。宇宙飛行士の毛利衛館長・ノーベル賞受賞者の小柴昌俊先生・日本理化学協会顧問の大木道則先生など日本の科学技術を代表される先生方や理科教育振興法の制定に力を尽くされた谷川和穂前衆議院議員や奥出政清日本理化学協会顧問、そして理科教育を熱心に支援されている藤井衆議院議員も祝賀会に参加いただきました。また、文部科学省からも近藤初等中等局長はじめ多数の方に参加していただきました。これらのご来賓の方は、当然壇上にてご挨拶いただくべき方々であるにもかかわらず、会場の広さ、時間の制限などのため大変失礼を致しました。繰り返しになりますが、心より感謝とお詫びを申し上げます。

この式典の成功には、理科教育および算数・数学教育

に関してこられた多数の方々のお力があります。そして何よりも全国小学校理科研究協議会、全国中学校理科教育研究会、日本理化学協会、日本生物教育会、日本地学教育学会、エネルギー・環境技術教育研究会、日本数学教育学会という今回の主催団体が文字通りにそれぞれの立場から積極的にかかわり、多くの人たちが協力し合っただけで成功したことが何よりも大きな意義であると思います。このことは今までの記念式典にない特徴であります。このことが実現できたことでこれらの団体の関係者の方々にも心より感謝しております。

今回の式典のテーマは、

『理科教育振興法制定50周年を記念し、日本の自然といのちを大切に、21世紀の科学技術を支える人材の育成を全国的課題として、「理数教育の一層の発展と充実」を実現しよう。』です。今回の式典が、多くの理数教育研究団体の協力で成功したという実績を大切にし、今後の理科および算数・数学教育の充実と発展のための協力体制をこの式典を大切な契機として出来ることから積極的に作っていくことが出来ればと切望いたします。

式典の成功のために、裏方でがんばられた先生方にも心から感謝いたします。

この式典の成功の影に、理科および算数・数学教育に関する東京および関東近県の協力者の先生方の積極的な協力がありました。これらの先生方の協力なしには式典の成功はありませんでした。そして、協力していただいた先生方の中には多くの若い先生方がいました。これらの若い先生こそがこれからの日本の理科および算数教育を担っていくということを考えるとき、その協力を本当にありがたいと思うと同時にこれからの理科および算数・数学教育の将来に明るい思いを持ちました。これらの先生方の多くは、式典や講演への出席を希望されていましたが、仕事の関係や座席の制限などのため、ご希望に沿うことは出来ませんでした。この場を借りて一言お詫び申し上げます。

最後に、この会の途中控え室で小柴先生に、日本の子供たちへのメッセージの色紙を書いていただきました。そこには「日本の子供たちへ 夢を大切にね」とありました。この言葉を大切に私たちが日々の理科教育に邁進していきたいと思っております。

理振50記念行事の概要報告

昭和28年(1953)8月に理科教育振興法が制定されて50周年を迎えた。今回は50周年という節目の年でもあるので、これまでの周年行事以上の充実した行事を目指して、早くから準備にかかった。従来は日本理化学協会が中心になって開催してきたが、今回は理科、数学関係の7研究団体(1頁左列参照)が結束し協力し合うこととした。

準備委員会(委員37名 H14.3~3回)において、式典のねらい、テーマ、会長依頼、式典の日時、会場、講演講師、予算等について検討し、式典の大枠を決めた。

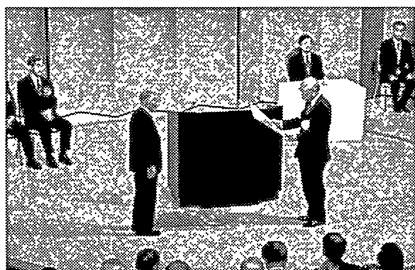
企画委員会(委員22名 H14.10~6回)で、皇室行啓のお願い、各係及び役割分担、式典次第、祝賀会開催、記念誌発行等を決め、実行委員会(委員39名 H15.6~6回)で、各係毎に具体的な計画に基づいて作業を進めてきた。

宮内庁に対しての行啓の手続き、打合せ等については、文部科学省教育課程課のご協力があって、無事に進めることができた。式典の5日前のリハーサル、前々日の最終打合せ、資料の袋詰め、来賓・出席者の一覧表作成等を経て、当日を迎えた。

当日は小雪の舞う寒い日となったが、足元に不便はなく、皇太子殿下をお迎えし、来賓、理科教育関係者、各団体の会員やOB等、計300名近くのご参加を得て、予定通りの進行で記念式典を開催した。(式典の次第は右の通り)

表彰式を贈呈する予定の、理振法制定の第一人者、坂田道太氏の計報が4日前に届いたため、開式前に参加者全員で黙祷を捧げてご冥福をお祈りし、表彰を割愛させていただいた。

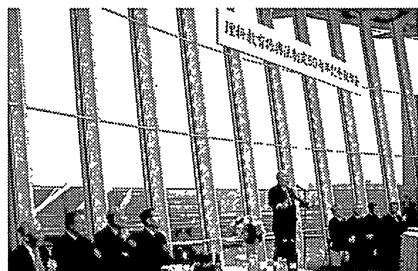
日本理化学協会顧問・奥出政清氏は、理振法制定の実現に当初から尽力された教員の代表格として、また、(株)日本理科教育振興協会は、理科教育振興の強力な推進を産学一体となって推し進めてきた団体として表彰された。



奥出政清氏表彰

式典に続いて、皇太子殿下ご列席のもとで、白川英樹氏より「次世代の人材を育てるために一教えることと学ぶこと一」と題して講演をいただき、参加者に深い感銘を与えた。

式典後開催された祝賀会は、予定以上の参加があり、会場を埋め尽くして和やかに進められた。



祝賀会 有馬朗人会長挨拶

今回の式典は、日本全国民に理科教育に対する理解を深めてもらうよい機会として、報道等を通して理振50式典挙行に注目が集まることを期待していた。

3日前に皇太子殿下行啓について、宮内庁、文部科学省より記者クラブに発表があり、当日10社の取材があって、テレビ、新聞等でこのことが報道された。この報道を見た一般の人達が、日本の理科教育に一層の関心を持っていただけたならば本望である。

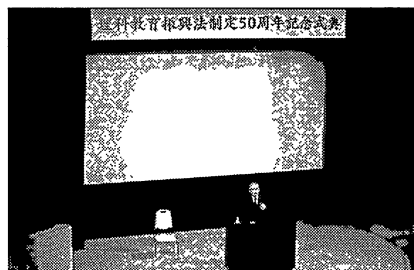
5月末には理振50記念の記念誌が刊行される。

(文責 事務局長 中山雄一)

「理科教育振興法制定50周年記念式典」次第

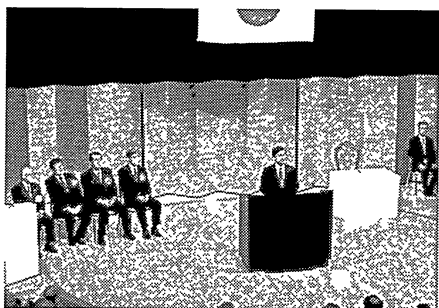
- I 式典
- 司会(日本理化学協会、都立永山高等学校長) 富岡康夫
- 1 開式の辞
実行委員長
(日本理化学協会長・都立武蔵高等学校長) 菊池正仁
- 2 国歌斉唱
- 3 式辞
理科教育振興法制定50周年記念会長
(参議院議員・元文部大臣・科学技術庁長官) 有馬朗人
- 4 祝辞
文部科学大臣 河村建夫氏
元文部大臣 鳩山邦夫氏
日本理科教育振興協会会長 倉持行良氏
- 5 皇太子殿下のお言葉
- 6 来賓紹介
ご紹介
事務局長(日本理化学協会事務局長) 中山雄一
- 7 表彰状贈呈
受賞者
元衆議院議長・元文部大臣 坂田道太氏
日本理化学協会顧問 奥出政清氏
(社)日本理科教育振興協会
ご紹介
実行委員長 菊池正仁
- 贈呈
理科教育振興法制定50周年記念会長 有馬朗人
- 8 宣言
実行副委員長
(全国小学校理科研究協議会会長、
中野区立中野神明小学校長) 津幡道夫
- 9 閉式の辞
実行副委員長
(日本生物教育会長、都立晴海総合高等学校長) 坂本元二郎

- II 記念講演
- 講師 筑波大学名誉教授 白川英樹氏
- 演題 「次世代の人材を育てるために
一教えることと学ぶこと一」
(講師ご紹介)
理科教育振興法制定50周年記念実行委員長 菊池正仁



白川英樹氏講演

皇太子殿下お言葉



1月17日を迎え、9年前の阪神・淡路大震災により亡くなられた方々に改めて追悼の意を表します。

理科教育振興法制定50周年に当たり、理科及び算数・数学教育のため、全国各地で日ごろ努力を続けておられる参加者の皆さんと共にこの記念式典に出席できることをうれしく思います。

理科教育振興法は、戦後の復興がなお続いている昭和28年、国土も狭く資源も乏しい我が国において、豊かで文化的な国家を建設していくためには、科学技術の果たす役割が大きく、科学技術を

支える人材の育成が重要であるとの認識の下に生まれた法律であると聞いております。

以来、皆さんのたゆみない努力によって、理科及び算数・数学教育は充実し、我が国の社会の進歩と発展に貢献してきました。今日の我が国の科学技術の高い水準や、国際的に高い評価を受けている多くの研究者や技術者の業績などは、その大きな成果と言えるでしょう。また、私自身を振り返っても、現在行っている歴史学の研究を続けていく上で、学校時代の理科、算数あるいは数学の学習を通して得られた合理的で科学的なものの考え方は、とても役立っていると思います。ここに改めて、この半世紀の間の皆さんの努力に対して、深く敬意を表します。

21世紀の新しい時代に、我が国が発展を続け、世界の繁栄に貢献していくためにも、理科及び算数・数学教育に更に多くの期待が寄せられていると思います。この分野の教育の更なる発展のため、皆さんが今後一層力を尽くしていかれることを期待し、式典に寄せる言葉といたします。

理科教育振興法制定50周年記念会長式辞

元文部大臣・科学技術庁長官

参議院議員 有馬 朗 人

本日は、皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、理科教育振興法制定50周年記念式典を挙行できますことに本記念会を代表し、篤く感謝いたします。また、この式典に参加いただきました理科教育および科学技術に関係されます方々に心より敬意を表します。

さて、日本の教育が、明治維新に始まる学制公布以来営々として日本の近代化、現代化に大きな足跡を残してまいりましたことは、皆様ご承知のとおりでございます。とりわけ、戦後は日本の復興という厳しい状況の中で、日本国が科学の振興を中心とした豊かな国づくりを進めていくことが求められていました。そして、この科学の振興の基盤は小・中・高等学校における理科教育の振興にあるとして、昭和28年8月に議員立法によって理科教育振興法が制定されました。

当時、小・中・高等学校の理科設備は必要とする基準に対して二割程度に過ぎない危機的な状況にありました。この法律の制定により、国庫補助の道が開かれ、理科教育の生命とでもいべき実験観察の設備の充実が図られ、学校教育は著しく充実し、児童・生徒の学習意欲が高まり、わが国の教育の振興に大きく貢献しました。さらに昭和47年に理科教育を理科および算数・数学教育と改める法改正が行われ算数・数学教育を含めた理系教育全般の充実が図られることとなりました。この法律によって以後の日本の理科および算数・数学教育の環境は大いに改善され、現在理科および算数・数学教育は世界に誇るべき水準に達しています。しかし、一方では学ぶ意欲や学習習慣が十分でないこと、または成人の科学技術への一般的な知識の欠如など今後国として取り組まなければならない課題も決して少なくはありません。

また、今日お見えの小柴氏、白川氏を始め、多くの日

本の自然科学者がノーベル賞を受賞されるなど、日本の科学技術が世界の最高水準にあることは明白な事実であります。このような高い水準にあるわが国の科学技術は今後共にわが国の国民的な宝であります。この宝を大切に、さらに発展させていくという前向きな視点が何よりも必要であります。

大学におけるCOEや高等学校におけるSSHなど自然科学の研究や理科および算数・数学教育に対する新たな試みが始まっています。これらの試みは、明らかに新しい時代を見据えての施策であります。しっかりとした基礎・基本を定着させる教育を行うと共に、その上に立った研究者や技術者を養成するための施策が展開されることが望まれます。

地道な初等中等教育の実施に関して、小学校・中学校・高等学校それぞれの学校の理科教育を充実させるための基本的な実験・観察の設備や器具の充実に向けて理科教育振興法の役割はさらに大きくなっていると感じます。一方で人材育成のための大胆で新鮮な取り組みを進めていくことも必要であります。理科教育振興法とこれらの新しい施策が車の両輪となって日本の科学技術を発展させていかなければなりません。

最後に、これらの施策を実現していくために何よりも必要なものは、人材であります。新しい理科教育を担い、熱い思いと志を持った教育者が必要です。新たな教育者を育成することは勿論、今理科教育に関っている教員ひとりひとりがその責務を強く自覚し努力していくことが必要です。教育の基本は教員の人となりにあるという言葉があります。この言葉を今日ここにお集まりの初等中等教育に関するひとりひとりの教員の方々への私の思いとして述べ、式辞を終わります。

祝辞

文部科学省事務次官 御手洗 康

理科教育振興法制定50周年、心よりお慶び申し上げます。

本日は、河村建夫文部科学大臣に成り代わりまして祝辞を代読させていただきます。

祝辞。本日、ここに皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、理科教育振興法制定50周年記念式典が挙行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。ご出席の皆様におかれましては、日頃から理科及び算数・数学教育の振興のために、多大のご尽力を頂いておりますことを心より感謝申し上げますとともに、深く敬意を表する次第であります。

理科教育振興法は、昭和28年に制定され、国におきましては翌年の昭和29年、理科及び算数・数学教育設備を計画的に整備するための理科教育振興費国庫補助金を創設したところであります。本年は50周年にあたる記念すべき年であります。この間における我が国の発展を見ます時に、本法が理科及び算数・数学教育の発展に果たした役割の大きさを改めて感じる次第であります。

今日の社会は大変大きな変化の時代に遭遇しております。変化のスピードは益々速くなり、そして世界的な規模で進んでおります。このような変化の時代に対応し、我が国が将来にわたって平和で安全で安心な国家として、明るく豊かな社会を築いていくためには、我が国の将来の担い手であります青少年を、心豊かでたくましく育てることが大きな課題であります。このためには国民として社会で生きていく上で必要な基礎的・基本的な知識や技能、論理的な思考力をしっかりと身につけるとともに、自分で考え判断をし、課題を解決するために責任を持って行動していくことができる力を育て、一人一人の個性と能力を伸ばしていくことが重要であります。このような中にありまして、理科及び算数・数学教育は、今後の我が国の発展にとって欠かすことのできない科学技術人材の育成に大きな役割を果たすことが期待されております。さらには、観察・実験や課題学習等、体験的・問題解決的な学習を通じて児童・生徒の学ぶ意欲や知的好奇心、さらには探求心を高め、科学的・数学的なものの見方や考え方を育成するとともに、理科及び算数が好きな児童・生徒を増やしていくことが極めて重要であります。このためには教育内容、指導方法の一層の改善を図りながら、理科及び算数・数学教育の充実を、今後ともさらに図っていくことが大きな課題であります。

本日、ご出席の皆様方におかれましては、これまでも理科及び算数・数学教育の充実・発展のために様々なご努力をされ、多大なご貢献を頂いているところであります。引き続き今後ともご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とさらなる今後のご活躍を祈念致しましてお祝いの言葉といたします。

平成16年1月17日、文部科学大臣、河村建夫

祝辞

元文部大臣 鳩山 邦夫
衆議院議員

理振法の50周年、本当におめでとうございます。有馬会長から、お前は理科の大事さ、いわば発達段階から理科をする心を育てることの大切さをわかっておるから、今日一つ挨拶をしろというご指名を頂いたものと、私は大変嬉しく思っております。

私が、文部大臣をさせて頂いていたときに、有馬会長は東大の学長をやっておられました。そして、私は、自然科学あるいは自然の大好きな人間でありましたから、有馬当時学長とは、肝胆相照らす仲とっては失礼ですが、大先輩から色々ご指導頂きました。私は、頑張りました。ですから、理振法上の補助金を、平成3年に12億だったものを、私は、平成4年に16億、そして平成5年に20億にした訳であります。それがまた、最近は、少し減り気味であるようです。それは、大変よくないことで、有馬会長と私は、頑張って国や政府が理科の心、理科の大切さ、数学・算数の大切さを十分に理解していないということになるものでありますから、今日は、谷川先生大先輩（元文部大臣）もお見えでございますが、みんなで頑張って、昔の30億 40億 50億と伸びていくように頑張っていきたい。そういう思いであります。

今日は、白川先生のご講演がありますし、小柴先生もお見えですが、私は、ノーベル賞を取られた福井先生が書かれた文章を今でも忘れられません。私は、蝶の研究をいたしております。いまだに一年中幼虫を飼っています。福井先生がこういうことを書いておられます。「私がノーベル賞をとることができたのは、少年時代の昆虫採集のお陰ではないかと思っている。昆虫採集、生き物と接していると、世の中が色々な幅広いもので成り立っているのがわかる。間口が昆虫採集によってぐーんと広がったから自分の研究がここまで到達することができた。間口が狭くて、一つの専門だけしかやらなかったら、奥行きもたいして深くない。」そういうことをおっしゃっておられました。なんととっても広い間口を形成するのが理科であります、子供たちにとっては理科教育でございます。うーんと広い間口をつければ、その人間はどこまでも進んでいけることになるであろうと考えております。

大変、私事にわたって恐縮でございますが、今日、皇太子殿下がわざわざお越しでございます。皇太子殿下と私は同じ小学校の卒業でございます。名前は言いませんが、私どもの小学校の理科教育は本当に素晴らしかった。ノートを一冊作らされて、「僕の頭」を書けと言われてました。理科のノートは別にあるんですが、「僕の頭」というノートを書けと理科の先生が言われました。なんでもいいから理科に関係あることで、自分で「あっ、これはこうなんだ、きっとこうなんだろう、」あるいは、「これは何だろう」と思ったことを書いて、それを先生に提出しろ、こういう授業だったんです。「百科事典は絶対写

してはならん！」こういう指導がありました。幅広い人間形成、そして自分の頭で考える、そして自分で感じる中から本当の素晴らしい人間というもの、できあがっていくのではないのでしょうか。

糸川英夫先生がこんなことを昔おっしゃっていた。「自分が科学者としてお褒めを頂いて、少しでも他よりも優秀だと、皆さまがたから言って頂けるとするならば、科学というものが解明できていることが、いかに全世界のすべての中のごく一部で、いかに少ない小さい領域であるかということをおは他の人よりも少し余計に知っているからであります。」非常に含蓄のある言葉を述べられております。すなわちそのことは同時に世界は大変複雑である。人間も複雑だ、自然界も地球も、あるいは星の世界も大変複雑だ、非常に不思議な存在だということをおは訴えているのではないのでしょうか。そう思うときに、今回の趣意書にありますように、正に理科教育の振興が、自然科学の発展が、地球環境との調和の上に絶対必要だと、考えるのであります。そのことを実現するためにも、今後一層理科教育が、あるいは算数・数学教育が進展するように私どもも頑張りますし、理科教育振興法という法律がありながら、予算が微少にとどまっていることに恥じ入りながら、今後増額に努めて参ることをお誓い申し上げて、祝辞とさせていただきます。

祝辞

社団法人 日本理科教育振興協会
会長 倉持行良

理科教育振興法が制定され、50周年を迎えましたこと、大変おめでたく謹んでお祝い申し上げます。

その栄ある記念式典にお招きを頂き、お祝の言葉を述べさせて頂く機会を与えてくださり、大変光栄に存じ、心から感謝を申し上げます。

思えば50数年前、小さな国日本、資源のない国日本が、戦いに敗れ廃虚のなかから立ち上がり、「科学技術の振興で国の復興と繁栄を!!」と国是にうたいました。

そしてこの科学技術の振興の基盤・土壌は「理科教育をとおした人材の育成にあり」と、当時兵庫工業高校の春日重樹校長先生が、ほとぼしる情熱と類まれな行動力で、さまざまな障害と困難を克服され、画期的な議員立法の「理科教育振興法」誕生へ、同志と共に奔走されました。

春日先生を支えた日本理化学協会幹部の先生や、何より法律制定にご尽力された、多くの国会議員の先生方のお顔が、今、目に浮かびます。

このような“井戸を掘った方々”と以来50年、今日まで、その井戸に新鮮な水をたたえつづけてこられた、文部省、文部科学省、全国小学校理科研究協議会、全国中学校理科教育研究会、日本理化学協会、日本生物教育会をはじめ、多くの関係者の皆さまに改めて、感謝とお礼を申し上げます。

今日の豊かな国日本は、厳しい教育・研究環境条件をいわず、熱意と努力で理振法を実践された先生方と、

先生方によってはぐくまれ、社会に翔いた、おびたしい人材によって実現したといっても過言ではありません。

理振で育った子供たちが、20世期後半の日本の飛躍的な経済発展、世界第2位の経済大国実現にいささかの貢献をしたのでは、と感慨を覚えます。

そして今、我国は、科学技術創造立国、知財立国を標榜し、科学技術第2次基本5カ年計画は、先端科学技術の研究・開発分野で、IT/環境/バイオ/ナノテクノロジーの重点4分野を核に、多くのナショナルプロジェクトを誕生させました。

大学・公設試験研究機関・民間会社研究所が日夜切磋琢磨の中で、国際的にも第一級の技術開発を競っており、多額の研究開発費も投じられております。それは、日本の21世紀の豊かさの源泉を掘り起こす作業であり、孫たち子供たちに豊かさを引継ぐ作業でもあります。しかし、本当の泉は、研究開発の土壌・基盤としての「教育」である筈です。理科教育・科学技術教育・ものづくり教育である筈です。

パブリックコメントを集約された教育基本法の、豊かな心をはぐくむために、生きる力をつけるために、学校や社会や家庭とは別に、自然から学ぶことは沢山あります。動物や植物のいとなみをとおして、命の尊さを学ぶこともできます。法則や原理も知ることができます。それは観察と実験・データの蓄積や分析などの作業をとおし、彼らの感性を刺激し、課題をみつけ、課題を解決する能力を養ってくれるでしょう。英語能力・体力向上に加え、読み書きそろばんと、特に「理科力」「ものづくり力」も教育基本法・計画のなかに強くうたいあげて頂きたいと思えます。

厳しい財政環境の影響を受け、理振法予算は過去最大の危機的状況下にあります。

41,400校のすべての学校に行き渡る理振の予算を“面”として捉えると、ここ2、3年に新たに登場したSSHやSPP、「理科大好きプラン」は、公募型の研究開発指定校となる“点”の予算です。“面”の予算を基礎として、“点”の予算が共に拡充されることを強く希います。幸い文部科学省のご努力により、このたび理振国庫補助金は、総合科学技術会議による平成16年度科学技術関連施策の優位順位付けにおいて、重要な施策として、Aランク格付けを頂き、国として着実に実施すべきとの高い評価を頂きました。

いつの時代であっても、理科教育の振興は我国の豊かさの維持・発展の原動力となります。今日この50周年記念の日を「理科教育振興」の新たな門出にいたしましょう。私共も微力ではありますが、皆さまの応援団として、研究会活動をサポートさせて頂き、また、理科教育の振興に、心新たに全力を傾注する所存です。

これをおもちまして、お祝の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

協会本部だより

(15年7月～16年1月)

7月1日 北海道大会案内と会報43号をHPに掲載
7月4日 文部科学省に北海道大会大臣祝辞を依頼
7月8日 日本理科教育振興協会会長に北海道大会臨席依頼
7月17日 日本理科教育振興協会理事会に事務局長出席
7月22日 [日生教]と全国大会祝電の相互送信を申合せ
7月28日 北海道大会第1日目 常務理事会を札幌コンベンションセンターにて開催(29名) 続いて大会事前打合せ 全国理事会・研究代表者研究協議会を同会場にて開催(来賓3名、協会役員75名ほか)
特別講演「最近における原子力問題の動向」
元北海道大学工学部原子核工学科教授 石川 迪夫 氏
7月29日 北海道大会第2日目 札幌コンベンションセンターにて 開会式・表彰式、総会、記念講演、全体協議、文部科学省講話「理科教育の課題と今後の展望」
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 清原 洋一 氏
記念講演「流水—海からの素晴らしい贈りもの—」
北海道大学 名誉教授 青田 昌秋 氏
7月30日 北海道大会第3日目 札幌コンベンションセンターにて 研究発表(10会場) 研究協議(8会場) 科学の広場(展示ほか)
8月4～5日 北信越ブロック大会に会長出席
8月5日 会報第44号 4,100部を合同印刷より受領(北海道大会用に900部送付済み)
8月8日 理振50第2回実行委員会 都立武蔵高校 17名
8月11日 文部科学省と全国都道府県教育委員会連合会に大会終了報告書、大会資料、会報を持参
8月12日 後援団体、協賛団体に大会終了報告書等を送付
8月18日 経理部副部長来所 経理打合せ
8月19日 広報編集部副部長来所 会報第44号発送事務
8月28日 理振50第1回事務局会議 協会事務局 7名
8月29日 大会不参加の顧問に報告書、会誌第1号等送付
9月2日 大会不参加の名誉理事に報告書、会誌等を送付
9月4日 各支部団体に報告書、会誌、会報44号等発送
9月9日 会長・副会長・監事・近県常務理事・部長・委員長(計24名)に委嘱状、関係資料を送付
9月11日 第14回教育情報委員会 事務局にて6名参加
9月12日 ウイルスチェックサービスの利用を申込み
9月17日 新教育情報委員会第1回報告をHPに掲載
9月19日 理振50第3回実行委員会 都立武蔵高校 20名
9月25日 東宮御所に教育課程課長、同輔佐、事務局長訪問 日本理科教育振興協会理事会 事務局長出席
9月29日 理振協会より「その道の達人」推薦の依頼あり
10月1日 衆参議員4名に理振予算確保充実の陳情 6名
10月2日 衆参議員6名に理振予算確保充実の陳情 8名
10月9日 理振50案内状発送 都立晴海高 10名

10月10日 部長会 都立武蔵高校にて 9名出席
文部科学省他に理振50記念行事後援名義使用許可申請
10月17日 理振50第2回事務局会議 協会事務局 7名
10月24日 理振50案内状を一般50名、来賓30名に発送
北海道大会事務局長より参加者616名との連絡
10月25日 常務理事会 15:00 神楽坂エミール 19名
10月26日 全国理事会 11:00 都立武蔵高校 43名
講演 「胃カメラ開発物語」
オリンパス株式会社顧問 中坪寿雄氏
10月27日 文部科学大臣に理振50式典臨席、祝辞の依頼
研究部会 都立新宿高校 11名
10月28日 「観察・実験事例レポート募集」事業委員会 5名
10月31日 全国都道府県理科センターに理振50案内発送
11月4日 「その道の達人」派遣事業候補者の推薦を支部団体事務局にFAXで依頼
11月7日 都道府県教育長に理振50案内発送 47ヶ所
11月10日 理振法予算を地方一般財源化とする計画の連絡
11月11日 HPに北海道大会論文要約と15年度役員を掲載
11月13日 第2回教育情報委員会 協会事務局にて 4名
11月14日 理振50第4回実行委員会 都立武蔵高校 14名
11月18日 島津理化器械(株)を訪問 倉持会長に祝辞依頼
11月20日 理振協会理事会に事務局長出席 協賛金目録受領
河村文部科学大臣に理振予算について陳情 7名
11月21日 鳩山邦夫議員に理振予算について陳情 4名
11月25日 HPに北海道大会報告(画像)を掲載
11月27日 理振予算陳情意向を小中生地の理科団体に打診
12月1日 北海道大会会誌第2号 60部を受領
12月5日 論文審査委員10名に委嘱と会議の案内を発送
12月8日 北海道大会事務局より論文資料集15冊を受領
「その道の達人」推薦書7名分を理振協会に送付
12月11日 東北3県理科研会長会議 仙台市 事務局長出席
12月12日 理振50第5回実行委員会 都立武蔵高校 17名
12月18日 宮内庁より皇太子殿下理振50式典に出席の連絡
「研究費補助金の公募について」支部団体に連絡
12月25日 平成15年度更正予算 計理部と打合せ
12月26日 文部科学省に年末の挨拶 他団体と7名
1月8日 行啓関係者会議 日本科学未来館にて 東宮 皇室警備、警視庁、文部科学省、日本科学未来館他 計29名
1月12日 記念式典リハーサル 会場ホールにて 約20名
1月14日 宮内庁・文部科学省より報道関係者に行啓発表
1月15日 第6回実行委員会 文京学院大学女子高校 18名
1月16日 袋詰資料等を日本科学未来館に搬入 前日準備
1月17日 理科教育振興法制定50周年記念式典・講演・祝賀会
皇太子殿下ご臨席 来賓：谷川・白川・小柴・毛利他各氏
講演 白川英樹氏 「次世代の人材を育てるために」
1月19日 論文審査委員会 学芸大学附属高校 8名
1月22日 第3回教育情報委員会 協会事務局にて 5名
1月23日 理振協会理事会 事務局長出席
(文責 事務局長 中山 雄一)

北海道大会を終えて

平成15年度全国理科教育大会
第74回日本理化学協会総会
第46回北海道高等学校理科研究大会
大会運営委員長 横山 明光

(北海道高等学校理科研究会会長・北海道札幌白石高等学校校長)

平成15年度全国理科教育大会、第74回日本理化学協会総会北海道大会は第46回北海道高等学校理科研究大会を兼ねて、平成15年7月28日より7月30日の3日間、札幌市コンベンションセンターを会場に開催いたしました。会場の札幌市コンベンションセンターは6月末にオープンしたばかりの真新しい国際会議にも使われる札幌市民の誇りとする施設であります。

「北の大地で、拓く理科教育－新時代に対応した教育を求めて」を大会テーマに掲げ、全国より600名を越える理科教員および理科教育に関係する人々の出席をえて開催され、大成功のうちに終了できました。

この大会は、北海道高等学校理科研究会（北理研）の組織総力をあげて準備いたしましたので、この成功は北海道高等学校理科教員一同大きな喜びとともに誇りと成りました。

私達北理研は広い北海道の全土各地にある高等学校で理科教育に携わり、研究活動・教育実践に取り組む教員の研究団体で、北海道の高校教育界では一番長い歴史を有しております。発足以来日本理化学協会の傘下に連なり全国とのネットワークを大切にしながら活動を推進してきましたが、わが北理研が受皿となり昭和48年の第44回札幌大会以来4回目の北海道（札幌）大会となりました。

今回は北海道大会らしい特色を出そうと私達会員のもてる能力（知力と体力）をもって、色々と新しい試みにも挑戦いたしました。

全道の全科目の北海道理科教員が関わる大会運営、全科目の研究発表、時代を反映する研究協議、北海道ならではの記念講演、日頃の授業で生かしている工夫アイデアを紹介する実験ポスターフェア、この大会の記念事業としてまとめた実験書の紹介と配布、北海道ならではの巡検、そして、参加者全員を対象とした懇親会の開催などを盛り込み特色を出す努力をしてみました。

また、本大会から会場には国旗とともに出来たての協会旗を掲げました。今後この二つの旗がシンボルとして掲げられることを願い、次年度開催事務局に引き継ぎました。

今回の北海道大会を開催するにあたり全て難なく容易にこたは進んだかというとそうでない面も沢山ありました。

実は、昨年度、日本生物教育会の全国大会もやはり、この北海道で開催いたしました。

この財政難の時代です。二年続けての理科関係全国大会は、色々な面で難しい局面もありましたし、スタッフの活動面でも多大なエネルギーの消費量であったことはご想像ができることと思います。北理研所属の生物教員は大部分の者が

北海道生物教育会に所属しています。

明年度の奈良大会の日程も日生教愛媛大会の日程と全く重なっております。全国の理科教育における力の分散が容易に予想できます。今後の大会日程の調整が急務と考えます。将来において、高校の理科教員の組織再編も望むところではありますが、次回の北海道大会は是非合同開催（共催）大会にしたいものと今回の大会を終えてつくづく感じたものは私だけではないと思います。

さて、全体をふりかえってみますと、清原洋一文科省教科調査官をはじめ、北海道教育委員会、札幌教育委員会、日本理科教育振興協会、日本原子力文化振興財団、さらに日本理化学協会の顧問の方々のご臨席を得て国歌斉唱とともに幕は開かれましたが、図らずも本年度は理振法の制定50周年という記念すべき年でもあり、奥出顧問からの、制定まで漕ぎ着けるまでのご苦勞や、関係各界の方々努力など、当時の成立までの経緯などの紹介は、現代の若き教員達に今更ながら先輩諸氏の理科教育振興に対する熱い思いを感じさせるものでもあり、これからの理科・科学教育への使命を再認識させられる機会にも成りました。

今年度は、本大会に5本の祝電が寄せられました。その中でも日本生物教育会からの祝電もあり、将来の高校理科教育の明るい方向性をも見ることが出来た様にも思われました。

記念講演は、北海道立流水科学センター所長（北大名誉教授）青田昌秋先生による「流水－海からの素晴らしい贈りもの」と題された講演でした。北海道ならではの流水についての話は、音楽やビデオ・スライドを駆使した楽しくもまた興味のそそられる科学的説明とともに地球環境の将来を視野に入れた地球人への流水からのメッセージとなったと思います。

研究発表は10分科会62本の発表、研究協議は8分科会25提言について熱心に取り組みました。

科学の広場では、ポスターセッション、実験コーナーをも設置し、業者の展示だけでなく、日頃の全国の先生たちの教材開発実践の交流の場になり、多少会場が狭く感じられるほどの混み様でした。

あわせて、北海道の教員による実験ポスターフェアも今までにない企画として、高い評価を得ました。

巡検については当初3コースを用意いたしましたが、残念ながら1コースは参加者不足で取り止めましたが、残りの2コースについては大変好評で、特に有珠山・昭和新山コースは高い評価をえました。

北の大地北海道からの発信する理科教育の風、全国からの参加された理科教員の皆様のご協力のお陰で、全国に吹かせることが出来たものと喜んでおります。

北海道大会をふりかえりまして、大会を運営した責任者として、北海道高等学校理科研究会の会員の力の結集が成功への力であったことを評価されたことに対し大きな感謝をもって、今大会にご協力、ご支援いただきました各関係方面へ感謝とお礼を申し上げます。

平成16年度全国理科教育大会 奈良大会の開催にあたって

奈良県高等学校理化学会会長 森 塚 正 親

新しい年の始まりとともに理科教育振興法制定50周年記念式典が、東京は日本科学未来館において、皇太子殿下をお迎えして盛大に行われました。戦後の混乱からどうたて直し発展させていくのか、先輩の方々は真剣に日本の未来を見据えて取り組まれました。そして、科学技術立国としての日本に理科教育の重要性を説かれ、これを支える理振法の制定が急務であるとして国を動かし制定に至ったと報告されました。以来50年、世界の科学技術をリードする不動の地位を我が日本は確保してきました。このような実績を作り得たのはベースとしての理科教育があり、支えてきた理科教師の熱意があったからであることは言うまでもありません。その理科教師を集めて全国理科教育大会が、古の都・奈良の地で開かれることになりました。この大会においても数多くの成果の上に立って情熱的に理科教育が語られることであらうでしょう。

おりしも、新学習指導要領が実施に移され、丸一年経過しての大会でもあります。豊かな人間性や自ら学び考える「生きる力」の育成を図るため、体験的・問題解決的な学習の充実も活発に行われましたし、学力低下を克服し、さらなる充実を図るための取り組みも行われたことでしょう。評価のあり方も多くの議論が巻き起こったと考えています。このような今日的課題を数多く提起し、色々な角度から検討し、興味・関心や探求心を育むための指導法のあり方や、エネルギー・環境と人間との関わり等について協議して頂きたいと考えています。

古都、奈良は古くからの文化を大事に守りながら、京阪奈の丘陵地に先端科学技術を花開かせるべく、関西学研都市を作り、21世紀を彩りある豊かな世紀にするよう様々な努力が積み重ねられている町でもあります。より良い新発想の理科教育がこの奈良から発信されるべく、多くの皆さんの参加を期待しています。

1 大会主題 「新発想の理科教育—古都からの発信—」

2 主 催 日本理化学協会
日本理化学協会近畿ブロック各県支部
奈良県高等学校理化学会

3 期 日 平成16年8月3日(火)～5日(木)

4 会 場 奈良大学
〒631-8502 奈良市山陵町1500
<近鉄京都線 高の原駅より1.5km>

5 大会事務局 〒631-0061 奈良市三碓町1379
奈良県立富雄高等学校内

全国理科教育大会 奈良大会事務局
TEL 0742-45-1421 FAX 0742-45-1427

6 日 程

(1) 第1日 8月3日(火)

常務理事会受付	10:00～10:30
常務理事会	10:30～11:30
全国理事会・研代会受付	12:30～13:00
全国理事会	13:00～14:30
特別講演	14:30～15:30
研究代表者会議ならびに研究協議会	15:40～16:30

(2) 第2日 8月4日(水)

受付	9:00～10:00
開会式 表彰式	10:00～11:00
総会	11:00～11:40
昼食	11:40～13:00
*実験ポスターフェア	11:40～13:00
文部科学省講話	13:00～14:00
記念講演	14:10～15:40
研究発表・研究協議打合せ	16:30～17:00
教育懇話会	17:30～

(3) 第3日 8月5日(木)

受付	9:00～9:30
研究発表	9:30～12:30
昼食	12:30～13:30
研究協議	13:30～15:30
閉会式(各分科会)	15:30～15:40
*科学の広場	10:00～15:00
*巡検	15:40～

2. 参加申込み等

- (1) 案内状発送 4月初旬
- (2) 参加申込み期限 6月4日(金)
- (3) 参加費・資料代 7,500円
- (4) 研究発表原稿締切り 6月10日(木) 厳守
- (5) 申込み先 〒630-8225 奈良市西御門町28
北川ビル内 (株)ジェイティービー奈良支店
全国理科教育大会奈良大会係 担当: 関口・福田

日本のふるさと、古都、シルクロードの
終着駅・奈良は心のふるさとでもあります。
多くの皆様方のご参加をお待ちしています。

広報編集部 石川直弘 宮本正彦 峯岸文男
仁井田孝春 黒田楯彦 三池田修
小野昌彦 森田有宏 山本進一